

◎インド「ドゥーン大学公演」「ヒマラヤ文化祭」「デリー独演会」出演



今回は、インドの地方都市デーラドゥーンにて、ドゥーン大学での公演、第一回ヒマラヤ文化祭出演。首都デリーにて津軽三味線独演会に出演しました。私は今まで38の国と地域で演奏しましたが、インドは初めて訪れる国で、とても楽しみにしておりました。今回は、以前からお世話になっている国際交流基金ニューデリー日本センター所長「佐藤幸治」さんよりお声がけいただき実現した企画です。

メンバーは私1人で、日本時間3月21日午前中に羽田空港からインドへ約10時間弱のフライト。同日インド時間夕方にデリー到着。日本にはない海外の独特な匂いに「ついに来たか」と感じながら佐藤さんと嬉しい再会。ホテルにチェックイン後は、「その国の食を堪能することも重要な国際交流」とインド料理を求めて街へ。カレーとチキンとナンを食べてあまりの美味しさに感動しました。



3月23日は、デリーから飛行機でデーラドゥーンへ移動。夕方からドゥーン大学にて公演を。大学の至る所にチラシが貼ってあり、沢山の学生が集まってくれました。演奏前は日本の伝統楽器をインドの若い方がどのように受け止めてくれるか少し不安でしたが、熱心に耳を傾ける姿に嬉しさが込み上げました。公演後に学長から花束と記念品を頂き、参加してくれた学生達と記念撮影を。



3月24日は第一回ヒマラヤ文化祭出演。各国から伝統芸能の奏者や舞踊家が集まり、私も日本を代表して津軽三味線を演奏。とても気持ち良く演奏させていただきました。私は弾いているので気が付きませんでした。背景にヒマラヤの風景が映し出されていたようで嬉しい演出でした。演奏後は各国の舞台を最前列で拝見し、初めて観る音楽や舞踊に感動しました。



3月25日は飛行機でデリーに戻り、「CD デシュムク オーディトリウム」という230席のホールでの津軽三味線独演会。思えば過去に津軽三味線の名手「高橋竹山」氏も、我が師匠「山田千里」氏も海外で沢山演奏されました。演奏をしていると、その情景が頭を過り、特に即興で奏でる最後の曲目「津軽じょんから節」は両名人のフレーズが天から舞い降りた感覚になりました。沢山のお客様が耳を傾けてくださる中で、我ながら良い演奏が出来たと思います。



3月26日無事に帰国。今回のツアーは私1人の独演会ということで、インドで伝えたい津軽三味線の響きをダイレクトに表現でき、津軽民謡も演目に多く取り入れることができました。津軽三味線奏者として忘れられない貴重な体験となりました。今後もこのような機会が沢山あることを願うばかりです。国際交流基金の佐藤さんはじめ、関係者の皆様には心から感謝申し上げます。

※青いジャケットの方が「佐藤幸治」さん、ヒマラヤ文化祭ではプレゼンターとしても大活躍されました。



それにしてもインドは、街中に牛がノンビリ歩いておりました。

